

“日本関節病学会のシンポジウムに参加して”

昨年11月19日に新横浜プリンスホテルにて、昭和大学主催の日本関節病学会のシンポジウムで発表する機会を得ました。他の大学教授や高名な先生方と壇上にあがり、私が専門にしています「金属の関節面を持つ人工股関節の有用性」に関する発表を行い、発表後の討議でも人工股関節の最新の技術やデザインに関する議論で盛り上がり、とても良い経験となりました。

今後もこの様に研究会や学会に参加・発表を続けて、人工関節のみならず最新の医療情報を取り入れる事により、最新の医療を皆さまに提供していきたいと考えています。

人工関節センター 相原 雅治



「ぶらな」

“人生を積極的に生きる人を応援する医療情報誌”

去年は人工関節センターを4月から開設し、人工関節に特化した専門的な手術とリハビリの実績を着実に重ねてまいりましたが、その間の手術待機期間がほぼ3ヶ月近くとなってしまいました。待機期間が長く、ご迷惑をお掛けしていますので、本年は手術件数を昨年以上に増やせる体制に整えつつあります。しかし、術前の検査や手術後に患者さん自身に輸血するための貯血などを考えると、手術待機期間は約1ヶ月となります。今年は出来るだけ1~2ヶ月の待機期間を目指しています。

昨年、当人工関節センターでの人工関節の手術件数は98例を数えました。手術数が多ければ多いほど良いという単純な評価は出来ません。手術数が多くても合併症が多い病院も知っていますので、雑誌などで「手術数が多いのは良い医療を行っている証拠だ！」的な情報はむしろ危険な考え方だと思います。医療とはそんな単純なものではなく、病状の異なる個人個人に、それぞれに最も適切な治療を行う事が重要だと考えます。

勿論、同時に治療の均質化と透明化も重要な要素ですので、手術数が少ない病院での専門的な治療は難しいのも現実です。我々の行っている手術数が十分な症例数と考えるのか、まだまだ少ないと考えるのかの判断は皆様にお任せして、本年も我々の信じる医療をスタッフ全員力を合わせて一步一步確実に進めてまいります。



相原 雅治 (あいはらまさひろ)

平成6年神戸大学卒業
日本整形外科学会・専門医
日本リハビリテーション学会会員
日本人工関節学会会員
日本股関節学会会員
日本リウマチ学会会員
日本感染症学会会員
ICD (感染制御ドクター)

前職は関西労災病院整形外科・副部長で現在も非常勤勤務。

昨年7月から当センターを中心に手術を行っていますが、困難な症例を依頼され、他の公的病院でも執刀をしています。

センター長の海外探訪記 “国連の巻”

私は、学生時代からリュック一つの貧乏旅行が趣味です。現在は長期休暇を取る事が難しいので、海外の友人宅を訪ねることが増えました。昨年末も友人の住むニューヨークに行き、彼の勤務先である国連を見学してきました。

国連はマンハッタンの西側でイーストリバーに面しています。見学は基本的に会議期間以外のみで、一般人は内部見学ツアーへの参加が必要です。日本語でのツアーもありますが、回数が少なく大抵は英語での説明となり、会議場では後方のオブザーバー席までしか入れません。今回は国連勤務の友人のおかげで、各国代表席のみならず壇上の発表席や議長席まで登る事が出来ました。以前、パレスチナやコンゴでのボランティア経験時に現地の国連スタッフと協力し合った経験のある私には、少し感慨深い経験となりました。



人工関節に特化した「人工関節センター」と乳がん診療に特化した「プレストセンター」を開設しており、より高度な専門医療を提供しております。

整形外科：岡 史朗
関節外来：相原雅治 水曜・金曜午前9時から12時
脊椎外来：加藤泰司 毎週火曜 午後4時半から7時
理学療法士：吉村淳子

診察時間：平日午前9時から12時、午後4時半から7時
土曜午前9時から12時 (祝日休診)

相原病院・人工関節センター tel. 072-723-9000
箕面市牧落3-4-30 fax. 072-723-9052
ホームページ: <http://www.aiharahp.com/>

この新聞の名称「ぶらな」とは、仏教の元言語となるサンスクリット語で“空気”や“清浄な気”を示す言葉です。我々は、関節や脊椎疾患に負けずに積極的に人生を楽しんでいきたい！と考えている“強い気”を持っている方々を応援する為に、色々な形で情報を発信していこうと考えています。

こんな情報が欲しい、こんな事をして欲しいなど希望がありましたら、お気軽にファックスでお伝えください。



近隣病院の人工関節手術数 (平成19年度)

病院名	症例数
相原病院	51
(平成21年度)	98
箕面市立病院	26
ガラシア病院	75
市立豊中病院	158
国立刀根山病院	24
市立池田病院	52
市立川西病院	30
市立伊丹病院	104
済生会千里病院	27
近畿中央病院	30
県立塚口病院	17
県立尼崎病院	70
宝塚市立病院	31



医療法人 啓明会
相原病院
Provides the best medical service

昨年8月からリハビリテーションを担当させて頂いております理学療法士の吉村淳子と申します。

さて、私は当院にて患者さんにリハビリテーションを提供したり、現在在学中の大学院にて人間の動きの巧みさを研究している傍ら、最近よく考えることがあります。それは「人はどうして情報の勝手な取捨選択をしてしまうのか？」ということについてです。

先日、独身生活を謳歌していた友人が結婚し結婚指輪をはめている様子を見て、私は何とその指輪が首輪に見えてしまいました。

最近世間では「婚活」という言葉が飛び交っていますが、私はどちらかという結婚には消極的です。その理由の1つは、結婚すると束縛される、自由時間が減る、嫁・姑問題、親戚付き合い等々、あらゆるジャンルのマイナスイメージが私にインプットされているためだと思います。

一方、結婚のプラス面はというと、う〜ん正直あまり思い浮かばない…。結婚後も素敵に暮らしているご夫婦もいるはずですが、結婚して良かったという情報はあまり私の中には残っていません。

これは、私が情報の自分勝手な取捨選択を行って、プラス情報を排除しているからかも知れません。しかし、この情報の勝手な取捨選択は私に限ったことでもないように思えます。

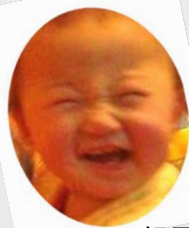
人工関節の手術後の患者さんに手術に至るまでの経緯を聞くと、「手術は怖いなどのマイナスイメージがあり避けてきたが、最後の最後に観念して手術をした」という方が多くいます。対照的に、手術後もう片方の関節も手術をする予定の患者さんに話を聞くと、「なるべく早く手術をしたい」という方が多いようです。この違いはどこからくるのでしょうか？

人は未知のことに恐怖や不安を抱き、プラスの情報を排除し、現実逃避する傾向にあるのかも知れません。しかし、マイナス面ばかりに執着するのではなく、プラス面を信じ思い切って行動することも時には必要かも知れません。やってみると案外簡単だったと気付くこともあるはずですよ。

私を含め当院の医師や看護師は人工関節に関してはみなさんよりも少し知識があります。関節の痛みを抱えたまま1人で悩んでいる方がいらっしゃれば、私たちに何でもご相談下さい。人工関節のプラス面・マイナス面をきちんとお伝えします。

私もこれからは結婚に関してちゃんと聞く耳を持ちますので、みなさんも結婚のプラス面を私にこっそり耳打ちして下さいね♪

- 経歴： 2005.3 大阪医専 理学療法学科卒業
- 2005.5 理学療法士免許取得
- 2010.3 大阪府立大学大学院 総合リハビリテーション学 研究科 卒業見込み
- 2005.6～2009.7 関西リハビリテーション病院 勤務
- 2009.8～ 当センター勤務



赤星選手が引退してしまいました…。手術をしてでも、何とかならへんの？と考えましたが、某番組で赤星選手の頸椎のMRIを見て、納得せざるをえませんでした。赤星選手には本当にいい夢を見せて貰ったというか、目の前でリーグ優勝という正夢を見せて貰ったので、今は本当にお疲れ様でしたとしか言えません。2003年9月15日甲子園球場で僕はその正夢に立ち会うことになったのですが、赤星選手のサヨナラヒット、星野監督の胴上げが目に焼き付いています。もう7年も経ってるんやなあ…

記憶を辿りますが、シーツ(当時広島、後に阪神)の2ランホームランで先制され苦しい展開の中、沖原の粘りのヒットで1点追い上げ、土壇場で片岡の同点ホームラン！で追いつくという劇的なゲーム、延長戦で最後は赤星が決めてくれましたが、今挙げた選手、赤星を含めもう全員いません。更に言うと、シーズン当初ライトで4番を打った濱中は右肩脱臼で離脱後、鳴かず飛ばずのまま数年後オリックスへ移籍、ショート藤本、セカンド今岡とも昨年オフにチームを去り…。かろうじて、楡山は残っているとはいえベンチを温めスタメンは厳しい。つまり、金本(当時3番打者だった)と矢野以外は引退か移籍し、そして今季は確実にキャッチャーは城島になるでしょう。投手陣を見ても、左右の先発の柱、伊良部、井川ともになく、抑えのウィリアムズも昨年で退団、意外にも、なんと当時藤川は敗戦処理か、せいぜい負けゲームの中継ぎだったんですね。つまり、あの優勝チームはもう既にほぼ完全に過去のものなんです。で、今季の展望です。

先にも書きましたが、キャッチャー城島、これは確定です。年俸5億の4年契約なんですから。あと、スタメン確定はショート鳥谷とレフト金本のみ。サードは新井がもちろん有力なんですけど、昨年の体たらくを見ていると不安です。ファーストはブラゼルでしょうが、膝に爆弾を抱えていますので1シーズン通して活躍は期待できません。セカンドは平野と関本が守れますが、どちらかが図抜けている訳ではないので悩むところです。ライトは毎年今年こそは！と期待される桜井と、ベテランの葛城、楡山とそろそろ頑張らなアカン浅井、昨年どん底の林威助と頭数だけは豊富、問題はやはり赤星の抜けたセンターなんです。現有戦力でセンターを守れる選手は、平野と浅井、あと育成選手上がりの野原か。ブラゼルがポシヤったときは関本か葛城がファーストでセカンドが平野、センター浅井でライトが桜井…。何だかスケールが小さい割にディフェンスが…。？みたいな感じです。このマニアックすぎる話に皆さんがどこまでついて来られるかに関係なく、話を続けます。つまり、赤星の抜けた穴はそうそう埋まらんよ、という話なんですけど、それだけではなく、批判を承知で敢えて心を鬼にして言いますが、チームとして、金本の連続インニング出場に拘ることの是非を考える時期に来ているのではないのでしょうか？決断するのは監督と本人ですが、ある程度休養もしなければパフォーマンスも上がりませんよ、いくらアニキ(年下)でも。で、繰り言を言いますがセンターです。ここへ来て遅まきながら情報を得ておりますが、新外人がいます。その名も、マツ・マートン！

嫌な予感がします。いえ、杞憂ならよいのですが…。一応センターが守れる外人ってことで獲ってきたみたいですが、全く打てそうにない名前をしています、マツ・マートン！既に契約金、年俸総額1億5千万を突っ込んでこの外人、阪神ダメ外人列伝の一員にならないことを切に願います。ええ、くれぐれも、神のお告げで野球を辞めたりしないように…。



←何だか変だと思いませんか？阪神は2003年に日本一は逃しているんですけど、スポーツ紙5紙セットの袋にはデカデカと「日本一」の文字が。これもレアな一品です。シリーズに敗れた翌日に某所でゲットしました。

